



緒方惟一郎
（警視庁『大正大震火災誌』
1925年、国立国会図書館
デジタルコレクション）

こんにちは。歴史資料室の村上です。

現在、歴史資料室では館内展示「県都青森 150 年!!—近代都市への脱皮」を行っています。この展示に合わせ、歴代知事の一覧表を作成しました。明治 4 年（1871）に青森県が誕生してから 150 年の間に 52 人が知事を務めています（但し、明治初期は名称が異なります）。今回は歴代知事の中から最も在任期間が短かった緒方惟一郎（1874—1951）をご紹介します。^{おがたいいちろう}

緒方は東京帝国大学を卒業後、明治 38 年に警視庁へ入りました。大正 4 年、警視庁に消防部が新設されると、初代消防部長に任命され、消防設備の拡充や制度改革に取り組みました。大正 12 年（1923）9 月 1 日に発生した関東大震災の際にも消防部長として消防部門を指揮しています。そして、大正 13 年 6 月 6 日に青森県知事となりますが、わずか 18 日後の 6 月 24 日には退任を命じられています。

『東奥日報』は 6 月 9 日付の記事で緒方を「江戸火消しの大親分」と紹介し、大火が多い青森県の知事としては最適任ではないか、と評価しています。実は、緒方が知事になる前の 5 月 16 日には八戸町（現八戸市）で大火が発生しており、大火からの復興は大きな課題となっていました。緒方も八戸大火のことを気に掛けており「自分の仕事の第一頁は八戸復興で染られなければならぬ」と語っています（大正 13 年 6 月 15 日付『東奥日報』）。



大正十三年五月十六日払暁 八戸町大火惨状絵葉書
（青森県所蔵県史編さん資料）

緒方は 6 月 16 日に県庁へ初登庁し、翌日は弘前、19 日は八戸、21 日は田名部・大湊を訪問しました。八戸ではテント村で生活する大火の罹災者を訪ね、焼け跡を徒歩で視察しました。6 月 24 日付の『東奥日報』には緒方が八戸を視察して感じたことや復興に向けての考えを紹介する記事も掲載されました。しかし、この記事が掲載された日、緒方に代わり松原権四郎が青森県知事に就任することが決定したのです。緒方が退任を命じられた理由ははっきりとはわかりませんが、中央の政局に巻き込まれたとみられます。

メールマガジン「あおもり歴史トリビア」（発行：青森市民図書館歴史資料室）

知事を退任することになった緒方は数日間、家族とともに浅虫温泉に滞在し、モーターボートで島めぐりをしたり、水族館を見学したりして過ごしました。ちなみに、6月27日には富山県会議員で富山消防組頭を務める長谷川庄蔵と函館消防組頭を務める勝田弥吉が緒方のもとを訪ねています。消防関係者から注目を集める人物だったことがわかりますね。



富山消防組頭 長谷川庄蔵

（火報新聞社『東京報知機株式会社主催消防講演会講演集 第1回』
1927年、国立国会図書館デジタルコレクション）



函館消防組頭 勝田弥吉

（火報新聞社『東京報知機株式会社主催消防講演会講演集 第1回』
1927年、国立国会図書館デジタルコレクション）

なお、知事を退任した後の緒方は大日本消防協会など民間の消防関係団体で要職を歴任し、消防の発展に尽くしました。

※今回の内容は「勲四等緒方唯一郎勲章加授について」（国立公文書館蔵）などを参考にしました。